

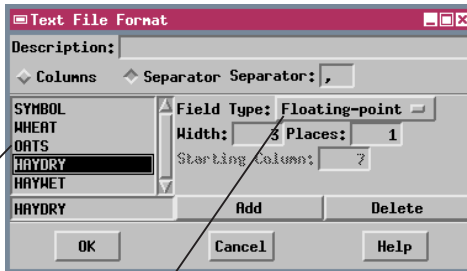
データベーステーブルへの自動インポート

ASCII テキストファイルから属性データをインポートしてデータベーステーブルを作成することが多いなら、TNTmips V6.30 に組み込まれた新しい自動テーブルフォーマット作成機能の良さが分かるでしょう。入力するファイルを選択した後、データベースのインポート (Import Database) ウィンドウの [ファイルから自動決定 (Determine From File)...] ボタンを押すだけです。テキストファイルが読み込まれ、フィールドの数、フィールドの幅、タイプ (ストリング、整数、浮動小数点など) が決定されます。小数点以下の桁数も決まります。フィールド名はテキストファイルの最初の行のフィールド項目を使って割り当てられます。次にテキストファイルフォーマット (Text File Format) ウィンドウが自動的に開き、フィールドの書式設定が示され、必要な変更を加えることができます。読み込み処理は、縦並びのデータ (固定長テキストファイル) でも、(カンマやタブなどの) 様々な区切り符号を使って区切られたテキストのどちらにも適応します。

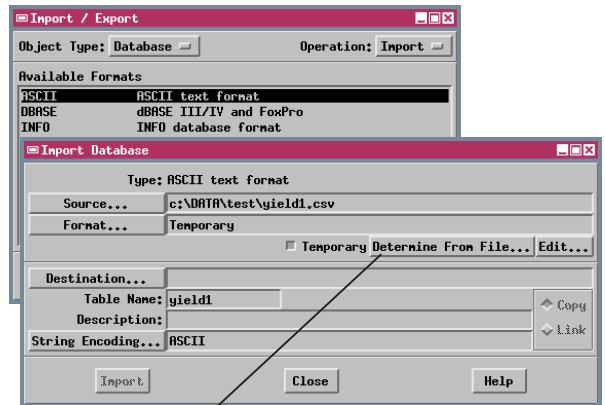
CSV (カンマ区切りの値) 形式のテキストファイルのサンプル。最初の行にフィールド名を含んでいます。

SYMBOL, WHEAT, OATS, HAYDRY, HAYWET
 Bc, 19, 24, 1.1, 3.0,
 Bd, 0, 0, 1.5, 2.8,
 Bf, 0, 0, 0.0, 0.0,
 Bg, 39, 46, 2.2, 5.5,
 BgB, 37, 43, 2.1, 5.3,
 BgD, 34, 36, 2.0, 5.0,
 BgF, 0, 0, 0.0, 0.0,
 BnB, 26, 31, 1.5, 4.3,
 BnD, 23, 25, 1.5, 3.8,
 BoD, 0, 0, 0.0, 0.0,

フィールド名はファイルの最初の行から読み込まれます。

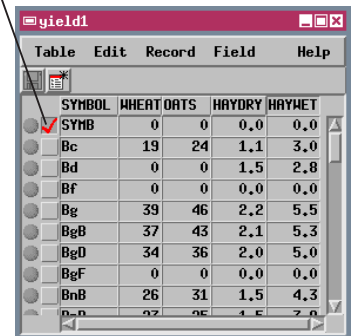


フィールドタイプ、幅、小数点以下の桁数は自動で割り当てられます。

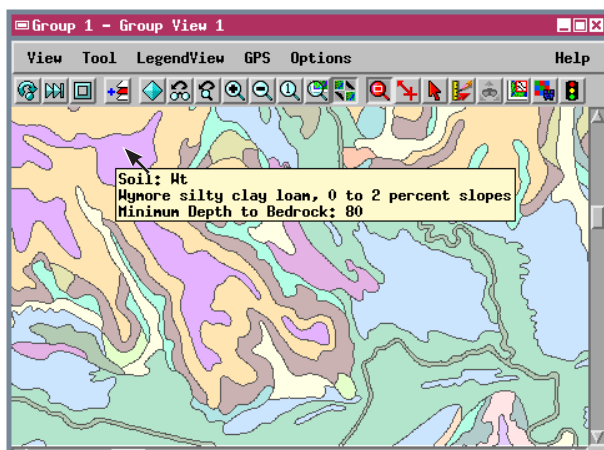


[ファイルから自動決定] ボタンをクリックすると、自動的に新しいテーブルの書式設定をします。

テキストファイルの最初の行にフィールド名を含んでいる場合、インポートしたテーブルで、最初のレコードを選択し消去することになります。



計算フィールドで複数行のデータティップを作る



1つの表示レイヤに対して、複数行にまたがるデータティップテキストを設定できます。まず始めに、テキストを作るために、アタッチされたデータベーステーブルに [文字処理 (String Expression)] 計算フィールドを作成します。クエリエディタ (Query Editor) で文字式を構文する際、“+” 演算子を使って [テーブル. フィールド] という標準の形式で複数のデータベースフィールドを参照したり、ダブルクォートで囲んだ単純な文字列を組み合わせ、込み入った文字列を組み上げることができます。“\n” という文字は“改行”コードで、後に続くテキストを強制的に改行します。整数や浮動小数点などの数値フィールドは NumToStr() 関数を使って文字列形式に変換しなければいけません。数値の書式の変換はそれ以外にも、sprintf() 関数を使うと文字式を作成できます。

